

令和 7 年度 上戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

—自分や他人を大切にする子ども・進んで学ぶ子ども・たくましく生きる子ども—

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して，学校教育目標に掲げた児童の育成を図る。

合言葉：学ぼう 遊ぼう 友だちと

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 児童の学力の向上のため，教師の授業力の向上を図る。

(2) 児童にとって居がいのある学級づくりを目指す。

(3) 地域とともにある学校を目指す。

○【星が丘中学校地域学校園教育ビジョン】

未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成

～認め合い，学び合い，高め合う児童生徒を育てる取組を通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 本校の教育目標の実現のために各教科等及び学年間の関連を図り，系統的・発展的な指導を行うとともに，地域や学校の実態，児童の発達段階や特性を考慮し，特色ある教育課程を編成する。

(2) 学校評価の反省を生かし，本年度の経営方針を踏まえ，知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育活動の展開を図る。

(3) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて工夫改善を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○ 未来を見つめ，主体的に生き抜く力の育成

(2) 学習指導

・ 「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わわせる授業の創造

・ 自分の考えや思いを豊かに表現できる児童の育成（書く力の育成）

○ 自ら考え，交流し，学びを深められる児童の育成

(3) 児童生徒指導

・ 相手に伝わるあいさつと正しい言葉遣いの定着

・ きまりやマナーを遵守した望ましい生活習慣と正しい判断力の育成

○ 異学年交流など集団活動による自己有用感の向上

○ 互いのよさを認め合い，周りの人を思いやることのできる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

・ 自らのめあてを明確にし，進んで体力向上に取り組む児童の育成

○ 健康で安全な生活習慣の定着

(5) 教職員の働き方改革

・ 業務の見直しと効率化の推進

・ リフレッシュウィークの奨励

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 95%以上	①自分の考えや思いを図や言葉で表現したり, 話し合ったりするなど, 豊かに表現して学び合う児童を育成する。 ②「学習の決まり」を基本にしながら, 相手に分かりやすく伝えたり, 自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう, 自分の考えを伝える力を育成する ③学習の様子や成果について家庭へ積極的に伝えていく。		
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①道徳科の授業の実施し, 生命や人権を尊重する心や, 人を思いやる心などを涵養する。 ②人権教育年間指導計画に基づき, 全教育活動を通して人権教育を実施する。 ③相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。		
	A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう, 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに, 担任が認め励ます指導に努める。 ②各教科の授業や校内での各種検定等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 道徳教材との関連も図り, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。		
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう, 学級活動, 体育, 学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行う。 ②学校給食と各教科等との関連を図り, 栄養のバランスのとれた食事と望ましい食習慣の育成を図る。 ③交通安全指導や避難訓練を定期的に行い, 自然災害も含め, 自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう, 指導を工夫する。 ④廊下や階段の歩行, 校庭での遊び方といった校内だけでなく校外での安全な生活についても児童に意識させるとともに, 全職員で指導する。		

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 ・児童（生徒）は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 90%以上	①一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、誉めたり言葉掛けを行ったりするとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制を整え、居心地のよい集団作りを目指す。 ②学級の中での当番や係活動、また委員会活動や縦割り班活動等を通して、一人一人が活躍できる場を設定していく。	
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②簡単な英語表現に繰り返し触れさせる。 ③外国語活動に関する校内研修やALTと事前に綿密な打合せを重ねるなど、指導力の向上を図る。 ④給食の時間に、英語の曲を流して児童がより英語表現に親しめるようにする。 ⑤ALTと日常的に交流が図れるようにする。	
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①各教科等の授業や校外学習、家庭学習、食育や学校図書館等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深め、児童に伝えられるよう努める。	
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者・教職員 85%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において積極的にデジタル機器を活用する。 ②図書館司書と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③1人1台端末を活用した学習や、端末の正しい使い方等についての指導にも家庭と連携して取り組んでいく。 ④学年だよりや学校ホームページにデジタル機器や図書等を学習に活用している児童の様子などを掲載し情報を発信していく。	

2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①社会科や総合的な学習の時間等において「持続可能な社会」について考えさせ、環境問題への関心を高め、資源を大切に、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②豪雨による水害や東日本大震災などの過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。 ③職員研修の機会を設けるなどして、職員の意識や理解を深めていく。	
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒ 教職員 90%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A 11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①学級活動、道徳科の授業を中心として、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを考えるとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ②児童会主体の「いじめゼロ運動」の推進に努める。 ③定期的なアンケートや Q-U 検査の結果、教育相談等から、児童を共感的に理解した上で、組織的な対応によりいじめの早期発見・早期解決を図る。 ④学年だよりや学校ホームページに道徳や学級活動で学習したことや、児童の様子などを掲載し情報を積極的に発信していく。	

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う機会をつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ②教育相談、アンケート、Q-U 調査、SC との教育相談などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。 ③職員会議で定期的かつ効果的に児童の情報交換を行う。	
3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいきいきと学校生活を送れるようにしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①日常的に児童の様子を細かく見取り、一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めると共に、いつでも悩みを相談できる人間関係を構築する。 ②教育相談の場を有効に活用し、さらに児童に寄り添った支援を心掛けていく。 ③職員間で情報交換を密にし、児童のよさを共有し、伸ばす積極的な児童指導に努める。 ④学級や学年、児童会等でイベントを企画・実践し、児童が主体となって活躍したり、目標を達成に向けて協力したりすることで、学校生活の活性化につなげる。	
3- (4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開する。 ②教師は授業の中でねらいを明確にし、友達の考えと自分の考えを比較してさらに学びを深める活動や、個別最適な支援を継続していくことで、全体的な学力向上を図る。 ③児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を行う。 ④教職員同士の情報交換を密にすることで、教材研究や学習指導に生かしていく。	

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①「チーム上戸」の合言葉のもと、校内における良好な人間関係の醸成を図ることで、より一層の風通しの良い雰囲気づくりに努める。 ②校内のOJTをさらに進め、教職員の専門性や「1 授業グループ」での研修成果を生かした取組を推進するなど、チームとしての協働性を高め、教職員の資質向上を目指していく。	
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①教職員の負担軽減に向け学校の組織運営の改善や、各種行事等の精選を行う。感染症対策に関しては、臨機応変に対応し、負担軽減を心掛ける。 ②1人1台端末の効果的な利用についてICT支援員と連携を取りながら他校の情報も共有し学び合う機会を設け、業務の効率化につなげていく。 ③「リフレッシュウィーク」への意識を高めることで、勤務時間を意識した業務の効率化や計画的な処理を進められるようにする。特に、リフレッシュデーや出張等の勤務予定を学年・ブロックごとに明示し、勤務の効率化を図る。	
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①星が丘地域学校園ビジョンに基づき、中学校との連携を保ち、あいさつ運動や乗り入れ授業を、目的を明確にして効果的に実施する。 ②地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。 ③地域学校園の取組の様子について、「地域学校園の取組」であることを明確化して学校HPへの掲載に掲載するとともに、学級懇談会等で話題にして保護者への周知を図る。	
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、生活科、総合的な	

5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	学習の時間等を中心に地域の人材や施設等の教育力を生かした学習を実施していく。 ②7月、2月の授業参観、全市一斉土曜授業を「オープンスクール」とし、広く地域に周知し、学校の教育活動への理解を深められるようにする。 ③「感謝の会」や「ふれあい祭り」の内容を再検討したり家庭や地域社会との連携による教育活動を実施したりすることで、よりよい生活習慣の育成や効果的な学習活動の展開を目指す。 ④出前授業等を積極的に取り入れ、本物に触れる体験を重視した学習活動を展開する。	
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%・保護者 90%地域住民 90%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、様々な状況を想定した避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③感染症予防対策、熱中症対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、年間を通して保健指導管理に努める。	
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピューターなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 95%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるように、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②1人1台端末を活用した学習を、家庭と連携して取り組んでいく。 ③文書管理やアンケート処理など、日常的にデジタル機器を進んで活用し、業務の効率化を図る。	
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童 90%以上・地域住民 80%以上	①児童会主体の週1回のあいさつ運動に加え、年間を通して地域や地域学校園と連携して児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開する。また、登下校や上戸タイム、朝の会、帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導を行う。 ②「見守りボランティア」を中心に、地域の方へも相手に伝わるあいさつすることや、時と場に応じた言葉遣いについて指導し、地域住民や保護者にも協力を呼び掛ける。 ③日々の生活の中で教職員も進んであいさつを行い、児童のあいさつに対する意識を高める。	

	B2 児童は、決まりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童（生徒）は、決まりやマナーを守って、生活をしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	①「かみとよい子のやくそく」に基づく全校共通理解のもとで、基本的生活習慣と正しい判断力の育成に努める。 ②決まりやマナーを守って行動していることを児童が相互に認めあう場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③生活目標に決まりやマナーに関する目標を掲げ、休み時間に巡視や指導を行うことで、児童の意識化を図る。	
	B3 児童は、積極的に遊びや運動を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は進んで遊びや運動を楽しんでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①体育の時間にがんばりカードを活用することで運動への意欲を高め、運動の楽しさを味わわせるとともに、体育の時間や学級活動で行う運動や遊びが日常の外遊びにつながるように工夫する。 ②体力テストの結果等を分析し、本校の実態に応じた体力向上につながる運動や遊びを、体育委員会の活動と関連付けて紹介し、楽しみながら運動能力の向上を図れるように工夫する。	
	B4 学校は保護者と連携して家庭学習を進めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日宿題などの家庭学習に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員・保護者 90%以上	①「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。 ②「家庭学習の記録」やノートによく目を通し、一人一人の学習状況をICTも活用して把握し、内容に応じて個別指導を行う。また頑張りを可視化して認め励ますことで意欲づけを図る。	
	B5 学校は家庭と連携して読書活動を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は家庭と連携して読書活動を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員 95%・保護者 85%以上	①地域学校園推薦図書（スター文庫）の設定・推奨、今月のお勧め図書の展示、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進する。 ②毎月第3日曜日を家庭読書の日とし、「読書イベント」を継続して行い、家庭の理解と協力を呼びかけながら、家庭を含めた読書活動の充実を図る。 ③「自分のおすすめの本」というテーマで、学期ごとに読書郵便として紹介文を書き、保護者に知らせる活動を行う。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

《学習指導面》

《児童指導面》

《健康・体力面》

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。